

2004年3月

各位

第4回 消防士1000名に聞いた「防火に関する意識調査」
一般の方々の防火意識について「高い」はわずか8.9%にとどまる
～防火のプロフェッショナル 消防士が採点～

株式会社モリタ

消防車製造・販売を手がける弊社株式会社モリタでは、全国1000名(有効サンプル数629名)の現役消防士の方々を対象に、本年度4回目となる「防火に関する意識調査」を、2004年1月20日から2月20日にかけて実施いたしました。

本調査は、火災現場で消火・救助作業にあっている、「防火のプロフェッショナル」である消防士の生の声、日頃実行されている防火対策や、一般の方々への要望などを調査したものです。

新生活がスタートするこの季節、消防士の方々の防火に関する意識にふれていただくことで、皆様が自らの防火対策についてお考えいただくキッカケになればと思い、今回その調査結果のいくつかを御紹介させていただくものです。

主な調査結果の概略

消防士とは……自らの社会貢献を望む献身的な性格・若い世代にとって憧れの職業

「消防士を志した動機(P.3 参照)」の設問に対し、「世の中の役に立つ仕事に就きたかったため」(45.3%)が各年代で最多回答。消防士の多くが、自らの社会貢献を望む献身的な性格であることが明らかになりました。特に年代別に分析した場合、10・20代の若い消防士は、「子供の頃からの夢だったため」(22.7%)が続き、現在も「消防士＝憧れの職業」のひとつとして位置付けられているようです。また、「実際に消防士になってみて(P.4)」の感想について「なって良かった」(83.6%)が多数を占めるものの、一方、「ご自身のお子さんに消防士になってもらいたい(P.7)」と問いかけると、「はい」(50.1%)、「いいえ」(49.9%)がほぼふたつに別れ、「誇り高い仕事」/「危険が伴う仕事」に就く消防士の家庭人・親としての複雑な想いがうかがわれます。

消防士が考える防火意識……「高い」とする回答がわずか 8.9%にとどまる

「一般の方の防火意識について(P.9)」防火のプロフェッショナルである消防士にお聞きしました。結果「高い方だと思う」は僅か(8.9%)にとどまり、「普通」「低い方だと思う」が多数(計 91.1%)を占めています。また、「最も実行してもらいたい防火対策(P.10)」では「火をつけている時は目を離さない」(36.9%)。「これだけはやめて欲しい(P.11)」を問う設問では、前回調査から 7.5 ポイント上昇「自分自身に対する妄信(29.7%)」となっています。特に、一般の方の「私は火事なんか起こさない」という「妄信」については、50 代以上のベテラン消防士の回答では(42.0%)を占め、防火対策にとって最も重要なキーワードのようです。

今後の火災発生件数…「減少する」は 13.5% 多くは放火などの犯罪による火災増加を予想

「火災の発生件数(P.14)」について「増加」(45.2%)、「横ばい」(41.3%)が多数を占め「減少」(13.5%)を大きく上回りました。「火災が増える理由(P.15)」については「放火などの犯罪の増加」が最多(44.4%)となり、現在の社会情勢に対する不安感が伺われる結果となりました。また、「北海道・東北」地区では、「高齢化社会」(44.1%)をその理由にあげた回答が最も多く、既に地域によっては、火災発生の原因のひとつとして深刻な課題となっているのがわかります。

徹底した防火対策を求める声……被害の拡大が恐れられる飲食店での防火対策の徹底

「防火対策を徹底すべき場所(P.17)」を問う設問に、各地区とも日常的に火を取り扱う「飲食店」が最多回答(48.0%)となりました。2001 年の新宿区歌舞伎町で発生したビル火災のように、比較的店舗が密集した地区に多く点在する「飲食店」での火災は被害が大きくなる可能性が高く、防火管理等の消防法令の厳守、徹底が求められています。また、「関東」「甲信越・北陸」「東海」地区では、「大型化する高層ビル」での防火対策の徹底を望む割合が高いという結果がでました。

この件に関する問い合わせ先

株式会社モリタ 広報室 担当:浦野、船越

TEL:03-5777-5088